

# 戯曲

に関わる

すべての人に

開かれた

セミナーです

オンライン版

10 / 7 火

10 / 22 水

11 / 19 水

12 / 24 水

2026 1 / 14 水

19:00 - 22:00

会場 Zoom

一般社団法人  
日本演出者協会

使用戯曲

「現代日本戯曲大系」  
とは

「現代日本戯曲大系」は、三一書房から刊行された。変貌する“セリフの時代”を21世紀に伝える現代戯曲のアンソロジー。第1巻(1946-1949)から第14巻(1986-1989)まで発行された。戦後日本の演劇史における重要な作品を年代別・網羅的に収録しており、演劇研究者や愛好家にとっても貴重な資料となっている。

日本の戯曲研修セミナー @ オンライン 2025

# 「現代日本戯曲大系」女性作家

による

## 戯曲群

を読む!

セミナー参加者

見学者 募集!

第9巻 (1972~1974) 収録  
『ふるあめりに袖はぬらさじ』  
作: 有吉佐和子

第12巻 (1981~1983) 収録  
『ゲゲゲのげ』  
作: 渡辺えり子

第13巻 (1984~1986) 収録  
『広島の子・八月六日』  
作: 村井志摩子

第2巻 (1949~1955) 収録  
『女子寮記』  
作: 山田時子

第2巻 (1949~1955) 収録  
『馬五郎一座顛末記』  
作: 真山美保

第10巻 (1975~1977) 収録  
『七人みさき』  
作: 秋元松代

第13巻 (1984~1986) 収録  
『糸地獄』  
作: 岸田理生

第14巻 (1986~1989) 収録  
『僕の時間の深呼吸』  
作: 高泉淳子  
※セミナーでは1994~2011年版を使用

平成生まれ/のあなたにこそ出会ってほしい、昭和の演劇のことは

女性の劇作家に焦点を当てた企画の第3弾として、「現代日本戯曲大系」に掲載されている作品の中から女性の劇作家による戯曲を取り上げ、読み解いていきます。「現代日本戯曲大系」(全14巻発行/三一書房)の発表年1946年~1989年の掲載戯曲181本のうち、女性劇作家による戯曲は14本。今回のセミナーでは、そのうちの8作品を読み、参加者で感想を共有したり、解釈や演出案などを自由に語り合います。男性の活躍が際立っていたかつての演劇界において、女性の表現者がどのように世界を切り取り、「戯曲」という形で表現活動を行ったか。社会における役割の変化が、生き方や思想にどのような変化を与えたか。それらを演劇という観点から考察するきっかけになればと考えています。

過去のセミナーでは、2022年に「雑誌『青鞥』を読む!」と題して、明治期の女性の思想や創作活動の原動力について参加者同士で意見を交わしました。翌年に開催した「現代女流戯曲選集」を読む!では、終戦の約10年後に出版された女性作家による戯曲集を読みながら、当時の世相や価値観を探ってまいりました。今回の企画は、その最終回となります。戦後から高度経済成長期を経て「昭和」が終わるまでの女性劇作家の活躍に焦点をあてていきます。「平成」生まれのあなたにこそ読んでほしい!「平成」そして「令和」を生きるみなさまと共に語り合いたい!オンライン開催のため、世界のどこからでもご参加いただけます。作家ご本人や、演出家のトークも聴くことができます。討論に参加したい方も、見学をご希望の方も、ぜひお気軽にご参加ください。(EMMA)

作家ゲスト



WATANABE ERI  
渡辺えり

山形県出身。劇作家・演出家・俳優・歌手。「オフィス3〇〇」主宰。「ゲゲゲのげ 逢魔が時に揺れるブランコ」で岸田國士戯曲賞、「嘘の女 まだ見ぬ海からの手紙」で紀伊國屋演劇賞を受賞。映画「Shall We ダンス?」日本アカデミー賞最優秀助演女優賞など俳優としても多数の受賞歴を持つ。2025年も、渡辺えり古希記念2作品連続公演「鯨!私の手に乗れ」「りぼん」や唐十郎追悼公演「少女仮面」など、多くの主催公演を手掛ける。



TAKAIZUMI ATSUKO  
高泉淳子

役者、劇作家、演出家。早稲田演劇研究会で演劇を始める。卒業後劇団「遊○機械/全自動シアター」を結成。少年少女から老人まで様々な人物を演じ注目される。1994年「ラ・ヴィータ」で文化庁芸術祭賞受賞。劇団解散後、英国の演出家と舞台化した「エレファント・パニッシュ」のニューヨーク、パリ、ロンドン公演で世界的評価を得る。「ホロヴィッツとの対話」「ア・ラ・カルト2」で2014年読売演劇大賞優秀女優賞。

演出家ゲスト



SAITO MASAFUMI  
斎藤雅文

1954年東京都生まれ。1980年に劇団新派文芸部に入る。新派の他、歌舞伎や新劇、ミュージカルなど、商業演劇を中心に幅広いジャンルの脚本・演出を手がける。コロナ禍の渦中で演劇ユニット「新派の子」を立ち上げ、独自の活動も展開している。「ふるあめりに袖はぬらさじ」は坂東玉三郎主演、大竹しのぶ主演にて演出している。



WADA YOSHIO  
和田喜夫

山口県生まれ。1982年から11年間、劇作家・岸田理生との共同作業を続ける。92年オーストラリアのアデレード、パース国際演劇祭で『糸地獄』を上演。01年よりオーストラリアやカナダの先住民の劇作家との共同作業を始める。「在日」の演劇人との共同作業も多い。夾竹桃の会、劇団yum yum cheese 所属。演劇企画集団 楽天団代表。



YOSHINO TASUKU  
吉野翼

(吉野翼企画)

アングラ演劇の意志を独自で引継ぎ、次世代への戯曲、文化、技術の発展と継承を目的として活動中。岸田理生やエイミー・ベンダー等の女性作家の戯曲を多数手掛けている。2023年より「岸田理生アバンギャルドフェスティバル実行委員代表」に就任。演劇のみならず、様々な表現手法を使って作品を演出・発表をしている。